



新版

八雲集の巻

七

1009
7



伊予製



心

1089
7

重玉福ぞぬくさきとて

豊列中念もれ舞もの

鳥帝が廻けさばお統義の前巻のりみい
たらうつらばゆふたの巻と極ぬ其外義の巻
あるおの巻味らぎもも人れりみありし
幸ののきばさうどりてさきも子細ありて
うの田舎ゆてハ巻の葉うの巻の葉ハ其年
巻難ふありてさう一例年葉うの巻
へはをりの巻ね年ハいさふもふうの巻の
たのう人さ人明れ身のさの巻難ハさう

何事なれどもきこふ事あらばまじくし用
を遠くせし事ありていふ事二年あり
とせせぬとや得つて入るがげおとす事
色あるべし—豊前の水お君のち念ふと
り少事お毎年とていふ事とけ得
—かある時得つておと見してなんぢ
親なれども親おまのこまやうと
事他年とせども其母をたのみ子とせ
成せして一たびとびつて後又ある事
なり—但—世續おなんぢとて世のま

三十一の巻七

あり又とここのまのあつめりつりやい
ごもその候—難—若おんぢおとる
事あるはまゝにて其あつめりつり
親いづひとせし—ちよとたりあれて親
れ—に親を聞き入るおとるにて親
又あり—時おはす佛おんぢ行佛
なんぢおとるに—何おんぢおとる
せしとてあつめりつり—は豆粒のちよと
お種おんぢおとる人くちよとて親おとる
ごも親お目おの地おとるおとるの

三十一の巻七



金田村の田舎

なれば何このやのまじくはか地とあつん
で御ミコより人並まれば目とあして毎づつ
くこれび枝葉は入はびこして鳥のこ
とくなるコノミと法ヒツ入り目と絶て見事よ
織オリちるく一まればらあ入橋イハシの程ほどをこ
このあまのうまれつとまをささぐりて他
ああの草のたひなるべしと宿しゆくて貴き殿たんと
庭にわ一とそ人くあまの集あつ入一川い河が被
て中ちゆうと見れば中ハ松梅しょうばいのごく一と一
くこと袋ふくろ敷しき子こふりつとまはらうのあふあふいよ

思ひ見て見るゆよはしくと離れちりた
小蛇こへびの紀きしてたのまじくといふあ金かね島しまよみち
ざ一い人ひと信しんあしてせらふといふうう一い庭にわよ
たたごころの空あまとほつとはあを根ねあつりあ
てはあああらうとまよれらびごのとやしく
集あつああつあつあて一い敷しきああらうみまうとあをた
ままああくあとあうあけあまあひあては人あねううは葬むすぶあ
御おん小こ増まるるすむ常とこ世よの虫むしとらハ仁にん義ぎ浅
きあねあ戻もああて地ちと作つくつて合あわあと一
ああ中ちゆう小こ蛇へびたたまればはをあらそとあ

れて日中の地ふ来りし子を健きく申せ
しゆらと信後よりい信人しをもくせし
やいをたのんぐらうらうらにされん今
驚れけ程を死つて来りし半信持れ
たうきふ世を成せして其由入海の
と子ばうらとけ由あく庵との信ト
羅一うらひて常世のあありしあうらと
いあせうこそ死にされしれし初代
か入れて我まゆてハ地よ子と死られ
成せしうらひよ信てはうらけ由あ

地はうらひなうらけしゆを借し子をそ
だてて海にまきぬハそとて死にた
まへしうらひのなるべし後よくるる新
地男うらひの其由ハ成せしまじも物を
うんずる知法ハまじとそこら半信
なをひてたりの獵師ハ無きと由ハ
は由の地ハなほ一一切を信し佛性
まじもを死にせし人世ハやと信し
魅を地と死半
のうら一あらんらふまじとて有信

の大毒なるまじは一月は千里ははし一匹狼虎
 色僅トガウ毒チイカをどるらんを恐れて竹れ
 林を滅ウ分クとせり竹ハあらんれたあ
 大毒由て救ヤサわはぶととび物まばたのれ
 とテ腐クく死スすところやけきひおれりて
 水ヲ飲ツバ一切ハ依キる毒あらん事をせられ
 て其水ノ事ハ山あり摩トらふたこの
 あく又其水ヲ飲ツば毒ハ増セせん
 事ヲはく門ヲてされありハ徳ヲもとのむと
 うやひハ人ハ人ハまうまうまうとせられん

ねららこーれさうハ蛇ハ蛇ハ半ハれ
 云ハ教ハそてあハのハ蛇ハ半ハとハらハ蛇ハ半ハハハ魚ハひ
 とハ宝ハ一ハ地ハは蛇ハとハれハ半ハ草ハらハりハ蛇ハ
 する事ハでハ多ハ人ハれハれハるハ事ハありハあハ人ハの
 毒ハせんハふハまハきたハらハるハ事ハありハあハりハ水ハのハ江ハ
 よハあハやハあハはハいハこハもハ生ハるハ事ハありハあハりハ水ハのハ江ハ
 何ハあハいハ薬ハありハはハあハるハ事ハありハあハりハ水ハのハ江ハ
 蛇ハとハ二ハのハ三ハのハらハねハ目ハをハなくハかんハらハよ
 らハれハ毒ハなるハ事ハありハ何ハとハせハるハ事ハありハあハりハ水ハのハ江ハ
 なく一切ハ有ハ接ハのハそれハくハれハ業ハとハはハり

く幸とらんドて言一ぬぬうふり河その
 ころあり蛇ハ行く死して地の音をふうあ
 備ハりべうぬれり何ふら向海色を見
 孫バや一まの幸小思ひ一よあり夕ぐれ
 りづくこそなく三足なる蛙一足をひ来
 てぬの汀なる乃新中し立立りし時
 其まあやそいりて海山の雲のはざめあり
 ちさなるるび一足をのちてけ蛙とら
 んにに蛙ハ鳴ふを根を入れて地の
 地の條のととらにぶららんのそ

とんでるもれ毒さなるるびをわいの
 蛙ハ物んのりハけり其らる小蛇ハひ
 うりて蛙小吟り付ねそてハりやられ
 ぬこれのひ其のまのハてぶあり孫子
 ぬれバとあくまそはるるびハ死一蛙
 ハ還てつつがなく一所の一足蛙ハそ又
 先のとくよ鳴とあはけるとと
 いそりびくそもあく又ぬらるるびを
 ひあてそらうくと孫ハありあいち
 うくぬてはあはよとびうと孫ハ

喰ひ付中とあるが、飛車くも入馬とわ
 げるびれあざいこと付まらうけ地と
 うてねいろう地ふんてれびちみん
 一げおれいまじりて地よ死せうか
 別のふ地あく又地へのまてまのど
 くお地あうド何こを梅一んはまじ
 ちまなり地のおいなるびよそ地
 の事なり地うふ付地あうさくして
 大にあらるひとこれう他一ニ是地
 地ハ是ふ子地うあまうとまのうて

れバニ是あわあは地まの回され地
 一がさくまあまじ地牛とほいみて
 中てさびあまいるびのさひか
 くの付んま地地はあまうとま
 さいた地まいれくてるびれあま
 さ一こむるびの合のま地くさび
 やりあや地をとうりかんすらくま
 まし細ひあふ地くうの付地まあ
 さい死するさかんたう露前地て
 さい死するさかんたう露前地て

のおまのいもあやうなるひふられせん
 方なごいふ中らあてたせの福^{ふく}一也^{ひと}
 多^ち男^{おとこ}徳^{とく}たる性^{せい}け^け海^{うみ}を用ひあや
 のあつたれ死^しをすふふこんたるは
 國^{くに}のまゝ天下^{てんか}のまゝかまごを
 送^{おく}をさひ^ひ餓^うら民^{たみ}をあつま
 まいせごう^{ごう}事^{こと}つま^まけま^まひる^{ひる}鞭^{むち}す
 せ^せも^もす^すて^てや^やせ^せら^らる^る小^こ重^{ぢゆう}あ^あ強^{ぢゆう}
 あふせ^せて^てね^ねご^ごも^もゆ^ゆら^らね^ねと^とく^く色^{いろ}を^をあ
 の仕^しと^と用^{もち}ひ^ひす^すか^かの^のて^ては^はま^まと^と者^{もの}



さしたの事此報とたそまじらばあつた
ひしと成程ともかたりりんすうも
あこなし盗賊強なりて玉玉と就
せし事こそ和漢あつたなり
わしあやれ事と程ん一人此事
あふ事と室にせぬあつたありれ
仁政と程一たありて國あつた
まのでせ久なりてあつた

伴吹山の氷神

伴吹山おの草あつてりあつた

野年の報り人おふ分入和漢をり
守山の者おま仲とて和漢有あつた
時草草と扱むとては山入の
つくともなく猿一ひの事と縁を
くして行われたま中こらおれりひけ
あつたてせふつたりてあつた
てそを和とあんならあつた
と猿の事とあつた
て一ひの事とあつた
集れりあつた

ありては今さんよれぞううとれ
 こそ^{あれ}罪^{ざん}産^{ざん}越^こえとれぞううとれ
 罪^{つみ}人^{ひと}こそ見^みたりとれぬ一^{いっ}擧^{じゆ}め^めも
 んれ業^{わざ}并^{なら}ふはやちと一^{いっ}擧^{じゆ}め^めは
 こそあり一^{いっ}よ^よ幸^{さい}ゆ^ゆたなく^{たなく}罪^{つみ}業^{わざ}一^{いっ}擧^{じゆ}め^め
 むと一^{いっ}幸^{さい}ゆ^ゆそれありとれぬ一^{いっ}擧^{じゆ}め^め
 よあり一^{いっ}た^たと^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}ひそあり^{あり}星^{せい}少^{せう}あり^{あり}罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 ち^ち後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}あり^{あり}罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 後^ごの^のい^いく^く星^{せい}ま^まで^でれ^れら^らう^う後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ

罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ
 罪^{つみ}人^{ひと}あり^{あり}後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ

後^ごの^のい^いく^く星^{せい}ま^まで^でれ^れら^らう^う後^ごぞ^ぞ罪^{つみ}と^とり^りま^ま一^{いっ}つ^つば^ばさ^さら^らふ

しつこく瘡を治すためのとめてたごうあ
まあううふらふらなる測あつ其あ人残
ぬる付くやうく書ふ及び一が皮他水候
子勅あううて水申あう又水候のど
うくなるああううれよま申あごら
まいた申しひ色あふそりだ親ある書
んぬととるんぬ一や及あううううら
あ念うて白あふはううんぬううう
にうて持あつるあううあううあうあ
うああうううあうあうあうあうあ
うああうううあうあうあうあうあ

其ああううあうあうあうあうあ
ううううううあうあうあうあうあ
れううううあうあうあうあうあ
其ああうあうあうあうあうあうあ
一あうあうあうあうあうあうあ
らうあうあうあうあうあうあうあ
あうあうあうあうあうあうあうあ
あうあうあうあうあうあうあうあ
あうあうあうあうあうあうあうあ
あうあうあうあうあうあうあうあ
あうあうあうあうあうあうあうあ

死にくはる者をしましする事うめひぐ一
 このふんをしせん方あくとうまじとも元元
 事をおんふるびをあらわせばらしく
 其の言をせらる事あらう一せちてい家家
 の由をしもあくもあらうとあらう後
 此世までの由あらう一なる事一一なる事あらう一
 くれみたはらしとせとせらる事あらう
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一

一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一
 なる事一一なる事あらう一なる事あらう一

金王御記 巻第七

十一



へ登りつらうくさるもなうはのうせぬまあり
 法身ゆゑに受け後中あのことらうるまで
 別の子ぬをさあうる一が深みうしう
 るらうらふあうくは海らのあてたび
 ちうく柳のゆぐさう一かきさううく
 ばうらなれがはや舞化ゆふやとらうる
 ち別なみあうあて性根をさあうる
 次をうよまうつふと徳福一命のあう
 と徳をまれさう別のみあうまうあう
 明もさうまうあうのうもたあうらう

舞の酉のり人あむい集りつとらあて
 色とあひれたび人の水神のたぢふ命を
 られぬんとはあふあうやうすぞんれ
 をつぐあけい神あう辰たう皆人あう
 の半よ思ひはあふれのとぞんれあ
 小番はとあうおたる百足三人はうら
 小色びとぞんて百足も色をびとを
 よ死せうらつあ事とぞ其級をさう
 それあうは地ふ無神たうてを隣の村
 墨永くりざらひとああつまはう

龍の洗火の

激湯をたんの社傍小天性龍を
 法師あうつこのあまもい今
 あえてあうけく人をもたうれず
 色をあてたうく集りあうとあ
 下くあてとせらあてくさ
 わたああまもあうて舞ふ
 う福の風たうとらあもあ
 事なりえあう猪あうのあ
 下あちあああああああ

てはさびる人むげまわつさう高よあむし
たうきんある日行持の秘義せられ
後世のけしきでう風ふくられてはての
あふ念の無き事くれ我うまじとあし
舞とあはれうの殺年流ふ今まで何ぞ
いま一事もたのうと一よあがよちく
難なれがそてたおんあ復とくへ一ま
れんをまては還てあお害とあな
本れういてまよなまどはてれりかみる
世とみ猶と御神れうと一て人の場

を以てあつとておれありまをささはう
せは痛のうごてお縁用とて梅つと
うまことあつらうとやみ一うらちゆの風舞
ようらう一うらちて一日殺中むむらう
かたさなるうらけとく人座一さのま
中へ進一れまにづくみ水と梅くみあう
はあらうけくはあせべ神の箱ハ鏡あ水
うらやうみ進くまみこみ一う後あう
あふまあうと水八分箱たあう一
海のとあう海とああうとああうあ

しごきまのあつひにきげり又いかにみりて
はかりけの側まので読み行なふたの端
おほきまのあつひにきげり又いかにみりて
けのちんまのあつひにきげり又いかにみりて
紙のよききあつひにきげり又いかにみりて
みむきまのあつひにきげり又いかにみりて
おほきまのあつひにきげり又いかにみりて
ちぞもさつてはらまのあつひにきげり又いかにみりて
ついでにきげり又いかにみりて
きげり又いかにみりて

